

普及活動情勢報告（平成23年9月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

もうすぐ収穫！東川酒米研究会現地検討会



山側と谷側で生育が違いすぎるけど。

安芸市東川酒米研究会では9月6日に会員や契約4酒造会社を含む関係者17名が各圃場を巡回し、意見交換した。

振興センターからは、まず今作の気象と栽培状況の関連、穂肥施用調査結果等を説明した。その後、収穫時期は9月20日～25日、コンバイン収穫方法等が協議された。また、酒造会社からは各戸、圃場で品質が違うので個人別、地区別の納品の要望が出、対応することとなった。

振興センターは、JA等の協力を得、今後9月中旬刈り取りまでの管理を重視して、高品質米生産ができるよう助言・指導していく。

こうち型集落営農組織の活動支援（天敵利用勉強会の開催）



温存ハウスでハダコスカカを捕獲中

振興センターでは、こうち型集落営農の取り組みを進めている「大原・西ノ平生産組合」のナス部会を対象に、天敵利用勉強会を開催した（9月14日、参加者12名）。ナス部会では、今作から新たにゴマを植栽した温存ハウスの取り組みが始まったことから、天敵に影響の少ない農薬の使用など、天敵導入初期の管理について勉強した。

参加者からは、「〇〇の農薬は影響が少なかった」など、活発な情報交換がなされ、有意義な勉強会となった。

今後は天敵の定着状況の確認や現地検討会の開催を支援する。

2年半の取り組みを総括！（地域AP「西山きんとき」実行支援チーム会）



チーム会で熱心に協議

9月15日、JA土佐あき吉良川支所で地域アクションプラン「西山きんとき販売促進事業」実行支援チーム会（室戸市、JA土佐あき、振興センター）を開催した（参加者7名）。環境に優しい芋生産のためのエコファーマーの認証取得（16名）、下級品に付加価値をつけるための加工品の開発（4品）、県外での知名度アップを図るための消費宣伝活動（京都府3回）など一定実績が出ている取り組みがある一方で、貯蔵施設など建設場所の確保が難しいことなどから断念した事業もあることなど、2年半の取り組みを総括した。

今後、エコファーマーの計画推進などの目標達成にむけて実行支援チームとして吉良川支所芋部会を支援していくことを確認した。